

IV 臨 床 研 修

令和6年度医学生向け臨床研修紹介イベント

○新潟大学医学生向け合同説明会

日時 : 令和6年4月24日(水) 18:30～21:00

場所 : ホテルイタリア軒

参加者人数 : 105名

○レジナビフェア2024 東京

日時 : 令和6年6月16日(日) 11:00～17:00

場所 : 東京ビッグサイト

ブース訪問者 : 19名

○マイナビ RESIDENT／新潟県オンラインセミナー

日時 : 令和6年7月20日(土) 11:00～11:25

参加者人数 : 99名

○新潟大学医学生向け合同説明会

日時 : 令和6年7月27日(土) 13:00～17:00

場所 : ANA クラウンプラザホテル新潟

参加者人数 : 20名

○マイナビ RESIDENT／新潟県オンラインセミナー

日時 : 令和6年11月23日(土・祝) 10:55～11:30

参加者人数 : 76名

○新潟大学医学生向け合同説明会

日時 : 令和6年12月4日(水) 18:30～21:00

場所 : ホテルイタリア軒

参加者人数 : 56名

○マイナビ RESIDENT／新潟県オンラインセミナー

日時 : 令和7年3月1日(土) 12:30～12:50

参加者人数 : 170名

令和6年度 臨床研修医・医学生

◆臨床研修医

【基幹型】

研修期間	研修プログラム	年次	人数	出身大学
令和5年4月1日～令和7年3月31日	柏崎総合医療センター研修プログラム	2	1名	新潟大学
	柏崎総合医療センター総合診療コース 総合内科重点プログラム	2	1名	群馬大学
	柏崎総合医療センター協力型病院 スタートアッププログラム (2)	2	1名	近畿大学
令和6年4月1日～令和8年3月31日	柏崎総合医療センター研修プログラム	1	4名	秋田大学 東京医科歯科大学 埼玉医科大学
	柏崎総合医療センター総合診療コース 総合消化器内科・基本手技（内視鏡・ 超音波等）アドバンスプログラム	1	1名	セグド大学
	柏崎総合医療センター総合診療コース 総合内科重点プログラム	1	1名	杏林大学
	柏崎総合医療センター協力型病院 スタートアッププログラム (1)	1	1名	旭川医科大学
	柏崎総合医療センター協力型病院 スタートアッププログラム (2)	1	1名	金沢大学

【協力型】

研修期間	基幹型病院	年次	人数	研修診療科
令和6年 5月20日～6月16日	新潟医療センター	2	1名	小児科
令和6年 7月8日～8月4日	糸魚川総合病院	2	1名	産婦人科
令和7年 1月13日～2月9日	糸魚川総合病院	2	1名	産婦人科
令和7年 3月3日～3月30日	新潟医療センター	1	1名	小児科

◆医学生実習

【新潟大学 臨床実習Ⅱ】

実習期間	実習診療科	学年	人数
令和6年 4月1日～4月26日	総合診療コース	6年	2名
令和6年 5月7日～5月31日	総合診療コース	6年	2名
	外科	6年	1名
令和6年 6月3日～6月28日	総合診療コース	6年	1名
令和6年 7月1日～7月26日	内分泌・糖尿病内科	6年	1名
	消化器内科	6年	1名
令和7年 1月14日～2月7日	総合診療コース	5年	1名
令和7年 2月10日～3月7日	総合診療コース	5年	1名

【杏林大学 クリニカルクラークシップ】

実習日	実習診療科	学年	人数
令和6年 5月7日～5月31日	消化器内科	6年	1名
令和6年 7月1日～7月26日	腎臓内科	6年	1名
令和7年 2月10日～3月9日	産婦人科	5年	1名

【京都大学 医学部イレクティブ実習】

実習日	実習診療科	学年	人数
令和6年 4月8日～4月19日	消化器内科	6年	1名

【杏林大学 新潟県地域枠プラスワン実習】

実習日	実習診療科	学年	人数
令和7年3月18日	産婦人科・呼吸器内科	2年	2名

【新潟県地域医療実習】

実習日	実習診療科	学年	人数
令和6年8月9日	訪問看護・退院支援カンファレンス	1年	3名
令和6年8月16日		1年	3名
令和6年12月27日	消化器内科、内分泌・糖尿病内科	2年	2名

【東邦大学 地域医療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ】

実習日	実習診療科	学年	人数
令和6年7月24日	訪問看護・退院支援カンファレンス	3年	2名
令和6年7月25日		3年	2名
令和6年7月26日		1年	2名

【東京医科大学 地域医療リーダーズコース実習】

実習日	実習診療科	学年	人数
令和6年11月29日	訪問看護・退院支援カンファレンス	1年	2名
令和6年12月23日		5年	1名

【東京医科大学 長期滞在型臨床実習（LIC）】

実習日	実習診療科	学年	人数
令和7年 3月31日～6月20日	一般内科（腎臓内科）	6年	1名

◆医学生見学

延べ人数	大学名	学年	見学診療科
29 名	新潟大学、富山大学、北海道大学、慶應義塾大学、東邦大学、徳島大学、信州大学、名古屋大学、東北大学、秋田大学、国際医療福祉大学、デブレツェン大学（ハンガリー）、帝京大学、東北医科薬科大学、岡山大学、熊本大学	3, 4, 5, 6 年	内科（消化器・呼吸器・循環器・内分泌糖尿病・腎臓・血液） 整形外科、外科、小児科、産婦人科、整形外科、麻酔科、総合診療、当直



「医師の道」へ志高く 医療センター 新たに臨床研修医6人 院長「社会の宝物」大切に

医師不足が深刻な社会問題となる中で、市内北半田2、柏崎医療センター（相田院長）では本年度新たに6人の臨床研修医が着任した。前年度からの3人と合わせ、9人というかつて例のない体制。研修医たちはそれぞれの専門分野を担い、日々研さんを積み重ねる。

臨床研修とは、医学部を卒業し、医師免許を取得した医師が、卒業後2年間でプライマリ・ケア（病気の初期診療）のため、基本的な診療能力を身に付ける制度。同センターでは、医師不足の改善に向け、2021年度、市と連携し、臨床研修期間中にオンラインを基本とした海外留学、国内研修制度を創設。ハーバード大学や海外の大学院へ公衆衛生士の学位を

取得する「自己研究」のための留学や研修医に対する補助費を打ち出した。これにより、22年度は6年よりなる臨床研修医2人、23年度は3人が着任した。本年度は8人の募集枠が定員に達し、6人が着任。2人が神奈川県内の協力病院に中途で、1年目は内科、外科、産婦人科、小児科、精神科、救急の必須診療科を中心に研修。2年目は地域医療のほか、選択診療科を研修する。

1年目の研修医の一人、増子直出（増子直出、田中真実さん）は医療ドラマ「コードブルー」ドクターXに憧れ、医師の道を目指した。救急医を目指しており、「医療現場にあり、患者さんと向き合える」というのが、研修医に求められている。増子さんは「研修医の生活は、患者さんと向き合える医師になりたい」と抱負を語った。

臨床研修医担当の松川伸明院長は「新潟大学以外の学生からも、当センターに対し興味を持ってもらえる。幅広い範囲で一般診療ができること、臨床研修に力を入れていること、海外留学支援制度、イノベーション育成臨床研修コースがあること、どこに出ても恥ずかしくない臨床研修を提供していることを強調していった」と力を込める。

相田院長は「研修医は社会の大切な宝物。しっかりと研修ができるように配慮し、責任を持って育てたい。市民から愛されたいと見守っていただけたら」と期待を込めた。

臨床研修医は次の人たち。かつ内は出身地。1年目：江口英貴（千葉）、小川啓（市西田町）、鈴木伸介（市西田町）、田中真実（新潟）、松浦明（新潟）、渡辺未希（小田原）、2年目：酒巻周（新潟）、古島聖（群馬）、本庄雄士（東京都）



発行所 柏崎日報社
販売部 柏洋社
〒945-0066
柏崎市西本町1丁目6-1
TEL 22-3121 FAX 22-7150

商標 最高品質
田塚屋
柏崎市西本町2-6-27

柏崎総局

〒945-0046

柏崎市四谷 2-1-38

0257(23)4177

FAX(23)4199

n-kasiwazaki@niigata-nippo.co.jp



15: 未満
5: 未満
5: 以上

(数字は予想気温
日本気象協会新潟支店)

研修医 最多7人着任

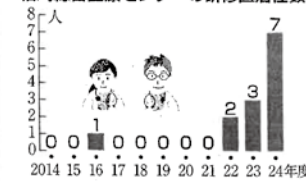
24年度、柏崎総合医療センター

支援充実へ県や市と連携 留学制度創設など奏功

柏崎刈羽地域の基幹病院「柏崎総合医療センター」(柏崎市北半田2)に2024年度、過去10年で最多となる7人の臨床研修医が着任し、経験を積んでいる。医療センターでは21年度まで5年連続で研修医の着任が0人だったが、ここ3年は複数人となった。医師不足が深刻化する中、研修医への支援制度の整備を進めてきた柏崎市やセンターは、継続して研修医を確保し、将来の医師確保につなげようという意気込みでいる。

着任したのは、本年度研修1年目の6人と、研修2年目1年目は県外病院で研修を受けた1人を含む計7人。研修医は柏崎市が設ける留学支援のほか、県が整備する大学教授などからオンラインで講義を受けられる「インベーター育成臨床研修コース」や、県外の大規模病院でも研修が組めるたすきがけプログラムに魅力を感じている。

柏崎市の留学支援を活用し、オンラインで公衆衛生を学ぼうと考えている鈴木隆介さん(24)は神奈川県出身。東京医科大学大卒は「新潟県にはいろいろなプログラムがあったので、興味を持つきっかけになった。柏崎市には留学支援制度もあり、首都圏へのアクセスも良いため選んだ」と話す。



柏崎総合医療センターで働く9人の臨床研修医。着任数は過去10年で最多の7人となった＝柏崎市北半田2 (同センター提供)

田中真実さん(27)は埼玉県出身。セグド大卒は「最初の2年間でいろいろな症例を見たいと思った。アットホームな雰囲気も良かった」と話す。

松浦甲明さん(26)は鹿児島出身。埼玉医科大学大卒は「地方の病院だからと、先生の顔と名前が一致した中で研修ができる。限られた医療資源でどう対処するか、学ぶことはたくさんある」と語る。

医療センターの相田浩病院長は、研修医の増加傾向について「県全体の医師数確保を目指す。県と協力してきた。市が留学支援を設けたこともアピールポイントとなった」とし、「研修医が研修医を呼ぶ」という好循環になったと分析する。

今後は、継続して研修医を確保し、研修終了後も県内で働いてもらえるかどうかを鍵とする。地元新潟大学の学生にも研修先として選んでもらおうと、大学卒業後に県内で一定期間、医師として働くことを条件に修学費用を支援する県の「地域枠」をPRするという。

日本医師会によると、2024年度調査に基づく人口10万人当たりの医師数は、柏崎市が166.45人。全国平均(283.25人)より116.8人少なく、県平均(218.14人)も大幅に下回る。

市国保医療課の戸田緑課長代理は「柏崎の医師不足は深刻で、十分に人手がいないと言いたい。県と医療センターと引き続き連携し、さらに必要な支援があるか検討したい」と話す。

相田病院長は、さまざまな病院で経験を積むことの重要性も指摘した上で、「いつか柏崎に戻ってきてもらえればうれしい。後輩や他の医師に新潟の良さを伝えてもらうことが重要だ」と話した。